

「 (設) 航空産業 」	教科	工業	単位数	3 単位
	学科、学年、組	航空産業科、 3 学年、 2 組		
使用教科書	自作プリント			
副教材等	「航空工学入門」 (日本航空技術協会) 「トコトンやさしい航空工学の本」 (日刊工業新聞社)			

### 1 科目のねらい (目標)

学習の到達目標	<p>工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、航空産業の発展への対応に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 飛行機について構造と機能を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 航空機産業に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。</p> <p>(3) 航空機の付加価値を高める力の向上を目指して自ら学び、航空産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
---------	---

### 2 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、以下の観点についてそれぞれA B Cで評価し、各観点の割合を基に評定 (5段階) で総括します。

評価の規準 A : 十分満足できる、 B : おおむね満足できる、 C : 努力を要する

評価の観点及び内容		観点の割合	評価方法
知識・技術	飛行機について構造と機能を踏まえて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	35%	・定期考査 ・課題
思考・判断・表現	航空機産業に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を身に付けている。	35%	・定期考査 ・ワークシート ・課題
主体的に学習に取り組む態度	航空機の付加価値を高める力の向上を目指して自ら学び、航空産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。	30%	・授業への取り組み ・ノート等提出物

### 3 学習計画

学期	学習内容	学習のねらい
I	9. 航空機の動き	・航空機の動きについて、安定性の視点で捉え、科学的な根拠に基づき航空産業に関連付けて考察し、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、航空業界の発展へ対応することができるようにさせる。
	10. 航空業界の単位	・航空業界の単位について S I 単位とインチポンド法との関係性の視点で捉え科学的な根拠に基づき航空産業に関連付けて考察し、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、航空業界の発展へ対応することができるようにさせる。
	11. 機体の構造	・機体の構造について機体各部を構造や役割の視点で捉え、科学的な根拠に基づき航空産業に関連付けて考察し、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、航空業界の発展へ対応することができるようにさせる。

2	11. 機体の構造  12. エンジン  13. 各種系統	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機体の構造について機体各部を構造や役割の視点で捉え、科学的な根拠に基づき航空産業に関連付けて考察し、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、航空業界の発展へ対応することができるようにさせる。</li> <li>・各種航空機エンジンを構造や特徴の視点で捉え、科学的な根拠に基づき航空産業に関連付けて考察し、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、航空業界の発展へ対応することができるようにさせる。</li> <li>・航空機の飛行に必要な、様々なシステムを役割の視点で捉え科学的な根拠に基づき航空産業に関連付けて考察し、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、航空業界の発展へ対応することができるようにさせる。</li> </ul>
3	14. 計器類  15. 航空機材料  16. 航空機の安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・航空機が飛行するために必要な各種計器を構造や機能の視点で捉え、科学的な根拠に基づき航空産業に関連付けて考察し、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、航空業界の発展へ対応することができるようにさせる。</li> <li>・飛行機材料を性質の視点で捉え科学的な根拠に基づき航空産業に関連付けて考察し、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、航空業界の発展へ対応することができるようにさせる。</li> <li>・航空機の安全について、過去の事故例から、事故が発生した経緯や状況の視点で捉え、科学的な根拠に基づき航空産業に関連付けて考察し、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、航空業界の発展へ対応することができるようにさせる。</li> </ul>